

B-2 「被ばく者と医療」

(1) 科目の紹介

基本情報	平成 26 年度・教養教育・前期		曜日・校時	金 3 限	
モジュール名	核兵器のない世界を目指して		科目名	被ばく者と医療	
教員名(所属)	三根 眞理子(核兵器廃絶研究センター)			教室	A-12
選択者数	63 名	2 年生の所属学部	教育学部	経済学部	薬学部
再履修数	1 名		(43 名)	(17 名)	(3 名)
<p>授業のねらい：</p> <p>原爆被災後の被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。</p>					
<p>アクティブラーニングに向けて工夫した点：</p> <p>学生が自主的に調べて、共同作業を行うようにした。</p>					

(2) 学修の評価

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 原爆被ばくの人体影響を理解できる。 ② 原爆被爆者の健康調査について理解できる。 ③ 原爆被災時の救護活動について理解できる。
成績評価の方法	<p>全 15 回の課題レポートの平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。</p> <p>なお、講義の順番は変更になる場合もある。</p>

(3) 授業の進行

概 要：		
回	学習内容	授業方法(講義、グループワーク、プレゼンなど)
1	原爆と医療の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションと講義 ・4人グループ作成。

2	原爆直後の救護活動（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク（図書館における文献調査とまとめ）
3	原爆と血液疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・キーワードの書き出しと感想
4	被ばく者への医療	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・キーワードの書き出しと感想
5	原爆直後の救護活動（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・2回分のキーワード集計とランキング発表 ・グループワーク（救護活動に関して図書館での文献調査）
6	原爆直後の人体影響調査（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（救護活動に関してのまとめ） ・模造紙に整理し班別発表と投票
7	放射線被ばく急性障害	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・キーワードの書き出しと感想
8	放射線とがん	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・キーワードの書き出しと感想
9	原爆直後の人体影響調査（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（人体影響調査に関して図書館での文献調査）
10	原爆被爆者の疫学調査（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・キーワードの書き出しと感想
11	原爆被爆者の疫学調査（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・キーワードの書き出しと感想 ・前回のキーワード集計結果とランキング発表
12	原爆被爆者の追跡（臨床的経過）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・キーワードの書き出しと感想 ・前回のキーワード集計結果とランキング発表
13	原爆直後の人体影響調査（3）	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワード集計結果とランキング発表 ・出席回数集計結果提示

		・グループワークの続き
14	原爆被爆者の疫学調査（大学）	・模造紙に整理し班別発表と投票
15	まとめ	・班別発表の投票結果発表と表彰 ・レポート作成準備と質問

（４）授業の成果

全体の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・講師が４人で、それぞれの専門分野からの講義で知識的にはかなり広まった。 ・大体、目標は達成できたが授業目標と学習意欲がやや低かった。批判的に考える力や自己表現力も低めであった。 ・積極的でない学生もいたが、全体として熱心に取り組んでいた。
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの時間が短いとのコメントがあり、今後工夫していきたい。 ・座席のグループ型への移動を徹底させたい。

（５）アクティブ・ラーニングの充実にに向けた提案

ポイント提案	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のキーワード記入の活用 <p>出席管理システムがすべてではないことを学生に通知することが違反防止となる</p>
参考になる資料	